

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

経営理念

経営環境が絶えず変化するなかにおいても、さらなる事業成長と持続可能な社会の実現に向けて変革を続け、北海道を基盤とした経営を進めていく

再生可能エネルギー
300万kW以上増

排出削減目標
60%削減

お客さまへの貢献
250万トン削減

生産性向上
4倍増

2 中長期の経営戦略

1. 泊発電所の再稼働

2027年のできるだけ早期の3号機再稼働を目指し、設計・工事計画認可審査や安全対策工事に取り組む。再稼働後は適正な水準で電気料金を値下げ

3. 火力発電の脱炭素化

石狩湾新港発電所2号機（2030年度）・3号機（2033年度）の運転開始。アンモニア混焼や水素燃料転換、CCUS導入を検討

2. 再生可能エネルギー拡大

檜山沖洋上風力、上ノ国町陸上風力、苫小牧木質バイオマス等により2035年度までに300万kW以上増を目指す

4. 系統整備の強化

30万kWの連系線増強工事や日本海ルートの海底直流送電整備を進める。統合型系統安定化システムによる安定化

3 対処すべき課題

① カーボンニュートラルの実現

- ・2050年北海道エネルギー全体のカーボンニュートラル達成に向けた挑戦
- ・水素・アンモニア等脱炭素燃料への転換検討
- ・CCUS事業の推進（苫小牧エリアで2024年10月から受託）

② 電力需要増加への対応

- ・次世代半導体工場やデータセンター立地による需要増に対応した供給力確保
- ・再生可能エネルギーの大量導入と電力の安定供給の両立

③ 経営基盤の強化

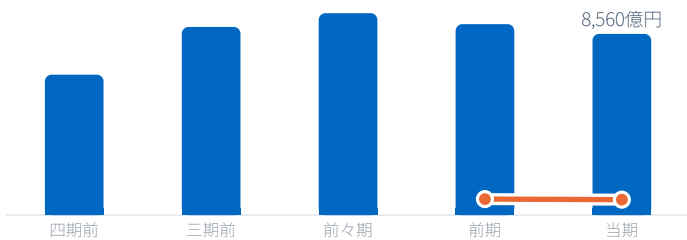
- ・カイゼン活動とDXにより生産性4倍増を目標に効率化・コスト低減を推進
- ・人材育成・働きやすい環境整備で「健康経営優良法人(ホワイト500)」を6年連続認定
- ・女性管理職増加等ダイバーシティ＆インクルージョン推進

面接で使えるポイント

- ・北海道の発展に貢献するGX実現を掲げ、2027年の泊発電所3号機再稼働と2035年度までに再生可能エネルギー300万kW…
- ・水素・アンモニア等の脱炭素燃料やCCUSへの投資を通じ、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて産業全体をリードしよ…
- ・エネルギーサービスやスマート電化、農業・福祉での事業共創により、エネルギー企業から地域課題解決企業へ進化を目指す姿勢

証券コード 9509

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
8,560億円営業利益率
8.6%財務健康度
36点 / 100点

将来性 曇り / 就活偏差値 55.0（当サイト算出の参考指標）

平均年収
828万円
電気・ガス業内 14位/28社平均年齢
41.3歳
電気・ガス業内 23位/28社平均勤続
18.2年
電気・ガス業内 16位/28社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: 北海道電力株式会社と株式会社コンサドーレとのオフィシャルトップ

